

腹腔鏡下手術が今日のように広く普及した切っ掛けの一つに、1978年にイギリスで成功した“体外受精”第一号で誕生したルイーズちゃんのこと挙げられます。それまで卵管の障害で妊娠が絶望的であったものが、腹腔鏡で卵巣から採取した卵と精子とを培養器内で受精させ、その受精卵を子宮内に移植することで、カップル間の子供を宿すことを可能にした画期的な出来事でした。当時は“試験管ベビー”と呼ばれたりもしました。その彼女も28年後の2006年12月に自然妊娠で母親となりました。国内での体外受精第一号は、遅れること5年後の1983年でした。生殖医療の進歩・発展は目覚しく、国内でも、1999年には出生数1,177,670人に対し体外受精出生数が11,119人(0.94%)と1万人を超え、その後も年々増加し、2006年には出生数1,092,670人に対し19,578人(1.79%)と、実に55人に1人がその恩恵を受けているのが現状です(資料:出生数は厚生労働省「人口動態統計」、体外受精出生数は日本産婦人科協会報告より)。

“体外受精”当初の腹腔鏡は、術者1人が直接接眼レンズを通して観察するもので、他の関係者の観察には、接眼部に別のスコープを接続して見るものでした。この成功の背景には、1980年にはいり腹腔鏡下に虫垂切除術をしたドイツの婦人科医Semmの業績がありました。しかし、1985年以降は、経腔超音波下での採卵法が開発され、腹腔鏡の出番はなくなりました。一方、その頃にCCDカメラや光学機器の開発でスタッフ全員が術者と同じ映像を共有できるシステムが登場。1987年にはフランスの婦人科医でもあるMouretによる腹腔鏡下胆嚢摘出術につながりました。手術界の大革命の幕開けとして、1990年前後から全世界の外科医が腹腔鏡下手術の可能性に向かって突き進み、国内でも2007年には年間10万件を超えるに至っております(日鏡外会誌13:500,2008)。

その経過はご存知のように、国内でも1992年に胆嚢摘出術が保険適用となり、内視鏡下手術の環境整備の先陣を切りました。その後は、機器や器材、ディスポ製品などの目を見張る開発や改良により術式も色々と創意・工夫され、安全性の向上と適応拡大が図られてきました。代表的なものに、細径器具、ライブ手術、バーチャル映像など次々と登場しては衰退してきました。2年前からはNOTES(Natural Orifice Translumenal Endoscopic Surgery)という新たな概念が生まれ、最近では単孔式腹腔鏡下手術も脚光を浴び、ロボット手術であるダヴィンチの国内使用の認可も間近になりました。しかし、内視鏡手術の器具や手法が進化しても、手術の目的は一つです。そのことを忘れることなく、常に平常心であり最も適した方法で、確実に安全な手術内容が提供されることを願っております。

(伊熊健一郎)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第14巻 第5号) 2009年10月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価:会員には毎号送付されます。その他については、1部定価2,940円(本体2,800円+税5%)となります。

2009年 年々め予約購読料:17,160円(税込)(配送料:医学書院負担)

編集・発行:日本内視鏡外科学会(代表:北島政樹)

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内

☎03-5981-6011 (Fax 03-5981-6012/E-mail:jses@asas.or.jp)(担当:佐々木、小山)

<http://www.asas.or.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 4F, 5-3-13 Otsuka Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0012, Japan

©2009, Printed in Japan

発売:株医学書院(代表:金原 優)(本誌担当:阿部、田村、安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 (振替口座00170-9-96693番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail:jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (有文京メディカル) ☎03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

形成外科における内視鏡補助手術の工夫 清家卓也 独行法人国立香川小児病院形成外科
胃癌手術における腹腔鏡下デルタ吻合 150 例の臨床評価
—術後アンケートから 河村祐一郎・他 国立姫路医療センター外科
透析患者の腎細胞癌に対する腹腔鏡下根治的腎摘除術の臨床的検討 木内 寛・他 医誠会病院泌尿器科

●症例報告

S 状結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術における吸収性ステイブルの使用経験 武田 真・他 平塚市民病院外科
脳室腹腔シャント留置患者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の経験 林 隆広・他 多摩南部地域病院外科
腸回転異常を伴った上行結腸癌に対して腹腔鏡補助手術を施行した 1 例 高橋秀和・他 大阪大学外科
鼠径ヘルニア TEP 術後の難治性疼痛に対し腹腔鏡下メッシュ摘除術を施行した 1 例
..... 高山哲郎 仙台社会保険病院外科
腹腔鏡下手術で整復しえた Winslow 孔ヘルニアの 1 例 松岡 宏・他 藤田保健衛生大学消化器外科
腹腔鏡下食道切除術に合併した右杯上葉捻転の 1 例 春木茂男・他 東京医科歯科大学食道・胃外科
上腸間膜動脈症候群に対する腹腔鏡下十二指腸・空腸吻合術の 1 例 見羽義浩・他 公立刈田総合病院外科

●2009 年第 14 巻総目次

他に症例報告数編，但し頁の都合により変更があります，ご諒承下さい。